

取引先さま各位

## カカオ・チョコレート週刊ニュース 8号

2012/7/23 発行  
株式会社 立花商店  
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

### 1、マレーシアの第二四半期カカオ磨砕数量は3.3%上昇、上期合計では2.9%減(7/16)

マレーシア・ココアボードはマレーシア全体の第二四半期カカオ豆磨砕数量は、前年同時期と比較し3.3%増の **74,493 トン**であったと発表した。

第一四半期と第二四半期を合計した上期合計では、昨年同時期と比較し、2.9%減少であることも同時に報告した。マレーシアはアジアで最大のカカオ豆の磨砕数量を持つ国である。

### 2、アジア全体の第二四半期カカオ磨砕数量は昨年対比5.7%増加(7/20)

アジア・ココア協会(CAA)は20日、2012年第2四半期におけるアジアのカカオ豆圧砕高について、前年同期比5.7%増の **150,726 トン**と発表した。CAAの統計は、マレーシアやシンガポール、インドネシアの圧砕業者の資料を集約したもので、世界の圧砕高の約12%に相当する。

### 3、北米の第二四半期カカオ磨砕数量は昨年対比9.76%減少(7/19)

2012年第2四半期の北米のカカオ磨砕数量は昨年対比9.76%減少の **112,768 トン**となったことが National Confectioners Association の統計にて発表された。この数字は、事前の業界関係者の予測数値の5%減少を更に下回るものである。

### 4、カメルーン2011/2012カカオ生産量は10-15%減少の見込み(7/16)

2011/2012シーズンのカメルーン産のカカオの生産数量は、昨シーズンと比較し、10~15%減少する見込みであることが、National cacao and coffee boardへのインタビューで判明した。

『今シーズンのカカオの生産数量はおそらく25,000~40,000トン程度落ちると考えている。もしかしたら、そこまで減少しなかったとしても、主要なカカオ産地で天候不順、病害の発生が起きてしまった影響は出るだろう』

カメルーンのカカオ生産は、2010/2011シーズンに農業技術の改善と浸透、非常に良い天候条件、生産性の高い新しい品種の生産が開始されたことながら起因し、過去最大となる **240,000 トン**に達した。

今シーズンの落ち込みは、ICCOの事前の生産量予測で生産量が200,000トンになるだろうと発表していたのとほぼ同様の範囲である。

世界で現在第5位のカカオ生産国であるカメルーンのカカオ業界は、1シーズンを毎年8月～7月31日で区切っており、10月～1月/2月をメインクロープ、5月～7月の間をミッドクロープとしている。

中部のEmana町のカカオ生産者組合の代表である Emmanuelさんは、『昨年と異なり、非常に収穫状況が良くなく、この2カ月間、カカオ豆の集荷数量がほとんどなかった』と語った。

また『今年は、これまでなかったことであるが、乾燥シーズンが、10月-4月中旬まで続き、例年より1カ月も長く、気温も特別に高い日が続いた。これが、カカオの花が適切な時期に開花し、実をつけ成熟するのを妨げてしまった』と説明した。

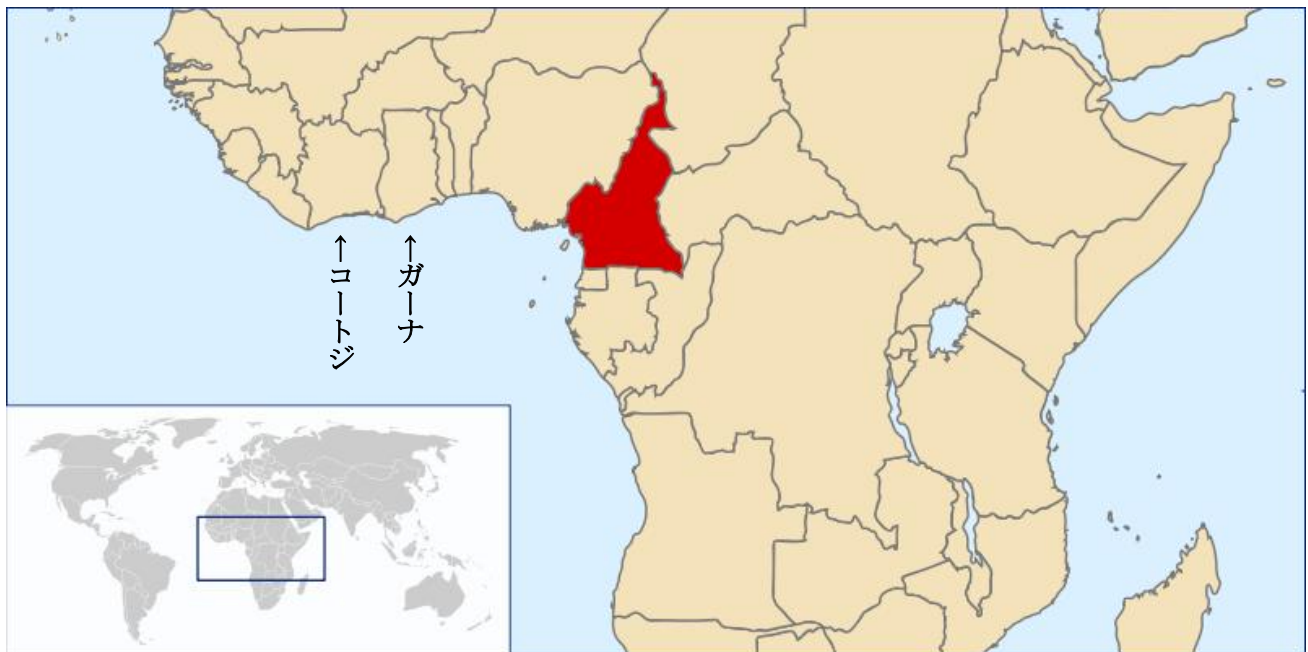
今年は、主要な生産地区である南西部の Konye や Mbongue 地区などでは幼虫の被害があり、中央部での Capside 虫の発生が最終的には南部にも広がりミッドクロープの収穫に悪影響を与えた。

Capside は、カカオの木を攻撃する虫で、得に若い枝を食べ、カカオの木全体に被害を与える。

この虫は、カカオの木が新しい枝を出した時にとっても活動的で、乾燥時期の間一気に拡大する。今年のケースでは主要な産地でこの問題があり、これが要因となって生産数量を大きく落とした要因となっている。

カメルーンでは中部と南西部が其々に国全体の40%のカカオの生産を占め（=合計80%）、南部が15%で東部は5%である。

《カメルーン的位置関係：赤い部分》 \*出典：ウキペディア（地図）



## 5、カメルーン 2011/2012 の輸出数量は、前シーズン対比 11%減少 (7/20)

カメルーン National cocoa & coffee board (NCCB) は 2011/2012 シーズンは昨年 8 月から今年の 6 月末までの輸出数量が合計で **174,399 トン** となり、昨年同時期の **196,068 トン** と比較し 11%ダウンとなったと発表した。

カメルーンは世界第5位のカカオ生産国。6月は合計3,169トンの輸出実績だったが、前月5月の3,286トンより減少、また昨年同月の5,547トンからも減少となった。

この減少の主な理由は、害虫の影響と、乾燥を遅らせる原因となるひどい雨に引き続き、長続いている乾季の影響であるとしている。

6月は7つの企業が輸出実績を発表した。カメルーン最大の輸出業者、Cameroon Marketing Commodities (CAMACO)は1,154トン、2位のOlam Camは828トン、引き続き、CAQPRO Ltdが301トン、Achanyi and Sonsが235トン、Telcar Cocoa Ltdが201トンという輸出実績であった。

## 6、6月のインドネシア、スラウェシ島からの輸出は昨年対比68%減少

インドネシアの主要なカカオ豆の産地であるスラウェシ島からの6月のカカオ豆の輸出は4,935トンとなり、昨年同月間の15,232トンと比較し68%の減少となった。

また、先月5月の輸出実績は7,114トンであった。

インドネシアはコートジボアールとガーナに追いつこうとカカオ生産数量を伸ばす試みをしているが、この数年、病害や、カカオの生育に適さない気候が続いた為、不作が続いている。

## 7、フランス CEMOI 社コートジボアールでの磨砕数量を拡大し、10万トンへ

フランスの大手チョコレートメーカーCEMOI社はコートジで行っているカカオ豆の磨砕工場での加工数量を現在の7万トンから2012年末までに10万トンに引き上げるとロイターの取材に応じた。現在の工場はアビジャンにあり、同工場に約374万ドル（約3億円）を投資しカカオ豆を保管する倉庫を拡張することで製造数量の拡大が可能になるとのこと。

2010年時点で、コートジボアールは、国内の全工場合計で532,000トンの磨砕可能設備を持っているが、政府はカカオ産業の構造改革の一環として、2015年までに現在約35%の国内での磨砕比率を更に50%まで引き上げたい意向を示している。

しかしながら、カカオ豆輸出者と生産者団体は、加工業者だけに20年間認められてきた免税措置を廃止するべきだと出張しており、政府が掲げる国内磨砕比率50%目標は“危険だ”と警報を鳴らしている。輸出業者や生産者組合は、この免税金額が合計で350億～400億CFAフラン\*（52億円～57億円）あると算出しており、この巨額の金額はコートジのカカオ産業の為、生産者を支援する為に使用するべきだと主張している。

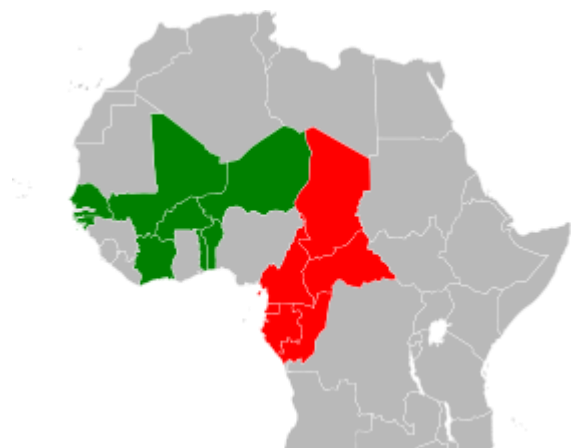
CEMOI社はまたコートジ国内でのチョコレート販売事業を年末までに開始する予定だ。同社の分析と予測によると、今後数年間で西アフリカのチョコレート消費は発展していくと考えられており、販売の拠点としてもコートジを中心にしていく予定としている。

### 《参考情報》

通貨・・・西アフリカの諸国では様々な通貨が使われています。旧英国植民地は各国其々の通貨で、ガーナではセディという通貨が使われていますが、一方、旧フランスの植民地ではCFAフラン（セイファーフラン）という共通の通貨が使用されています。

\*CFAフランは（セーフーフラン、仏 Franc CFA）は、西アフリカ、中部アフリカ地域の旧フランス植民地を中心とする多くの国で用いられる共同通貨。西アフリカ諸国中央銀行発行のも、中部アフリカ諸国銀行発行のもの2種類がある。両者は通貨としての価値は同一であるが、相互に流通することはできない。

## CFA フランを使用する国



\*上記地図：ウキペディア参照

### 西アフリカ諸国中央銀行発行（緑の部分）

セネガル、ギニアビサウ、マリ共和国、コートジボワール、トーゴ、ベナン、ブルキナファソ、ニジェール

### 中部アフリカ諸国銀行発行（赤の部分）

チャド、中央アフリカ共和国、カメルーン、赤道ギニア、ガボン、コンゴ共和国

\*ニュースソースは特記がない場合以外は、ロイター通信社の情報を加工し提供しています。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田 TEL03-5783-3545

メールアドレス：w-ikuta@tachibana-grp.co.jp